

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2024年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	専門演習Ⅳ		
担当者(Instructors)	今瀬 政司	配当年次(Dividend year)	4
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

この演習では、「社会的課題の解決と地域づくり」をテーマにして、社会の問題で苦しむ人を助けたり、課題解決を図ったり、地域の活性化に取り組む人たちの活動について主に学ぶ。3年生と4年生（各前期・後期）を通じた学習内容として、①「社会的課題の解決」や「地域の活性化」等について、知識や事例や実践ノウハウを学ぶ。また、②ゼミ生自らが希望する具体的な課題テーマや事例等を対象にして、調査研究や実践活動を行って、卒業論文を作成する（3年生前期に企画立案、後期に中間作成、4年生前期に初稿作成、後期に推敲・完成）。さらに、③地域（行政・企業・NPO・他大学等）の現場を訪問して学外学習を行う。授業を通じて、④就職活動の知識・スキル（企業・団体・行政機関（公務員））や実践的なビジネススキル（表現する力、受け止める力、協働する力等）を身につける。将来の就職活動や企業・団体・行政機関に勤める上で実際に役立つ知識・ノウハウとスキル（生きる力、働く力）の基礎を身につけて「成長する」こと、自らに「自信を持てる」ようになることを目標とします。授業形態は、原則各回を対面とするが、必要に応じて事前に連絡した上でオンラインで行う場合がある。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	文献をもとにした学習を踏まえて、プレゼンテーション（スライド型・会議型・対話型等）やディスカッション、グループワークの機会も取り入れる。事例研究として学外学習も行う。様々な時事問題や雑学、受講者の問題意識なども積極的に取り上げる。進路・就職活動や学内外活動等での個別相談も必要に応じて行う。担当教員は、シンクタンク企業や民間非営利組織10団体以上に所属して、様々な実践活動や国・自治体の政策形成に携わってきていることから、その具体的な実務経験を紹介することで、リアリティを持って実践イメージを持てるようにする。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	オリエンテーション	演習の内容・進め方等、自治と協働による地域づくり	□
第2回	地域づくりの卒論(1)：卒論（案）推敲	自治と協働による地域づくりの卒業論文（案）修正報告と表現テクニック学習	□
第3回	実践のスキル・ノウハウ(1)	就職・就労のビジョンと具現化など	□
第4回	地域づくりの卒論(2)：卒論（案）推敲	自治と協働による地域づくりの卒業論文（案）修正報告と表現テクニック学習	□
第5回	実践のスキル・ノウハウ(2)	実践・学外活動等での状況に応じた表現力・プレゼンテーション力など	□
第6回	実践のスキル・ノウハウ(3)	実践・学外活動等での情報の収集・分析・整理など	□
第7回	地域づくりの卒論(3)：卒論（案）推敲	自治と協働による地域づくりの卒業論文（案）修正報告と表現テクニック学習	□
第8回	実践のスキル・ノウハウ(4)	実践・学外活動でのスケジュール管理能力と社会人マナーなど	□
第9回	地域づくりの卒論(4)：卒論（案）推敲	自治と協働による地域づくりの卒業論文（案）修正報告と表現テクニック学習	□
第10回	地域づくりの卒論(5)：卒論完成	自治と協働による地域づくりの卒業論文の完成	□
第11回	実践のスキル・ノウハウ(5)	実践・学外活動でのコミュニケーション力と協働力と社会貢献力など	□
第12回	地域づくりの卒論(6)：卒論要旨完成	自治と協働による地域づくりの卒業論文要旨の完成	□
第13回	地域づくりの卒論(7)：卒論発表	自治と協働による地域づくりの卒業論文と要旨の発表	□
第14回	実践のスキル・ノウハウ(6)	就職・就労の実践的ノウハウなど	□
第15回	実践のスキル・ノウハウ(7)	就職・就労の準備など	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

--

自らの興味や考えを大事にしながら、授業時間外でも積極的に学びを深め、調査研究や実践活動を行い、課題に取り組むこと。自身で分からない疑問等は、積極的に教員に質問・相談等を行うこと。（事前・事後で4時間程度）

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

演習テーマに関連する様々な時事問題や雑学、あるいは受講者の問題意識に関連した事柄についても積極的に取り上げる。演習での課題のほか、進路・就職活動や学内・学外活動等の相談にも乗り個別面談アドバイスを行う。学習・取組みの成果は、今瀬政司研究室ホームページで情報発信する。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
主体性	◆ 2021地域ビジネスDP3	実社会で役立つ知識・ノウハウの基礎を身につけることができる。地域に貢献することができる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			30%	70%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

その他：授業期間中の卒業論文とレポート。積極的に学びを深め、調査研究や実践活動を行い、課題に取り組んで「成長しているか」、実社会で役立つ知識・ノウハウやスキルを身につけて「成長しているか」等について、授業状況や提出課題で公平に点数化して総合的に評価する。

■テキスト(Textbooks)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	授業中に説明します。	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	今瀬政司(2011)『地域主権時代の新しい公共 希望を拓くNPOと自治・協働改革』学芸出版社	
2	演習テーマに関連した参考文献や実践的な活動情報等を随時紹介する。	
3		
4		
5		